

北海道教育大学函館校

第1号

## 江差ソーシャルクリニック ニュース



## コロナ禍における江差 SC の活動

平素より江差ソーシャルクリニック(江差 SC)の活動に対するご理解とご協力をありがとうございます。江差 SC は、大学と町民の皆様が一緒になって地域課題を解決していこうという取り組みです。江差町と北海道教育大学函館校の包括連携協定に基づいて2016年度から実施されています。町民の皆様の温かいご理解とご協力のおかげで、江差 SC の活動も5年目に入りました。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大によって、江差 SC の活動も大きな制約を余儀なくされています。このような状況でも、少しずつではありますが、感染防止対策を徹底しながら活動を再開しております。町民の皆様にお目にかかれる機会も少ないことから、私たちの活動を知っていただくために年2回のニュースレターを発行することといたしました。今号では、10月までの活動についてお知らせします。今後とも江差 SC の活動へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター センター長 齋藤 征人  
江差 SC プロジェクトチーム 代表 古地 順一郎

## まちづくりカフェSEASON 5 始動!

プロジェクト担当: 齋藤征人

町民の皆さんが、リラックスした雰囲気の中で町内の課題を話し合い、課題解決に向けた取り組みを町民主体で行なっていく「まちづくりカフェ」。毎年多くの町民の皆さんにご参加いただき、様々な興味深い動きが生まれてきています。道内の他の自治体からも注目されているこの取り組み、5年目になる今年度は「SEASON5～新スタイル～」と題して、コロナ禍でのまちづくりに取り組んでいます。

7月にはオンラインで第1回会合を開催。9月には感染防止対策を施した上で第2回会合を町



役場で開催しました。どのような「新スタイル」が生まれてくるでしょうか。今後の動きに期待が高まります!



## 江差夜市にお邪魔しました!

プロジェクト担当: 古地順一郎

江差 SC は、上町商業地区の活性化にも取り組んでいます。学生のフィールドワークの一環として、数年前から江差夜市のお手伝いをさせていただいています。今年度は、コロナ禍で本学の地域活動に大きな制約があったため、お邪魔できたのは9月の夜市のみとなりました。学生2人が参加しましたが、うち1人にとっては初めての江差。夜市の関係者に温かく迎えていただき、とても感動したようです。裏面では学生の声も紹介していますのでご覧ください。

現在、商店街活性化案に関する調査を学生が進めています。年度内にご提案させていただく機会を設けたいと考えています。引き続きよろしくお願い致します。



(裏面に続きます)

**観光の経済波及効果をとらえよう！ プロジェクト担当：藤井麻由**

江差 SC は、観光がもたらす経済波及効果の見える化のお手伝いもさせていただいています。江差町は、観光を基幹産業の一つと位置付けています。戦略的な観光まちづくりを進めていく中で、観光が地域経済に及ぼす影響をできる限り正確に把握する必要があります。国や道が収集しているデータもありますが、市町村レベルになると誤差が大きくなりますし、必ずしも江差町の特性にあったデータになっていると言えない部分もあります。



町独自のデータを取ることは、「稼ぐ観光」に向けた施策の改善、地域経済の発展につながります。データの収集にあたっては、町民の皆さんの主体的な関わりが大切です。そこで、観光事業関係者の皆さんと一緒に考える機会を9月に持たせていただきました。今後も皆さんのご協力をいただくこととなりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

**江差屏風に関する論文を発表！ プロジェクト担当：三上修**

皆さんにとって親しみのある「江差屏風」。この屏風にさまざまな動植物が描かれていることはご存知でしょうか。江差の地域資源を再評価するプロジェクトの一環で、江差屏風に描かれた動植物を推定する研究が行われ、このたび生き物文化誌学会の学会誌『ビオストーリー』第33号に「江差屏風に描かれた動植物」と題した論文が発表されました。



この研究には、町学芸員の宮原浩さんにも関わっていただいています。また、町出身の学生も執筆者の1人となっています。どんな動植物が描かれているのか、関心のある方はぜひ論文をご覧ください！町図書館で閲覧可能です。

**まちあるきツアーを実施しました！**

プロジェクト担当：古地順一郎

10月25日、まちあるきツアーを実施しました。例年5月に実施するこのツアー、函教大生にとって江差町を知る貴重な機会となっています。町民の皆さんのご協力のおかげで、参加学生の満足度は高く、このツアーをきっかけに江差町での地域活動に携わる学生もいます。新型コロナウイルスの感染拡大で実施が危ぶまれましたが、感染対策を施した上でようやく実施することができました。

当日は江差らしい風の強い天候でしたが、町民の皆さんのご協力のおかげで、学生にとって学びの多い1日になりました。

**〈学生の声〉初めての江差**

田中美帆(地域協働専攻 地域政策グループ 2年)

9月19日、私は初めて江差町の地を踏み、江差夜市に参加しました。準備の段階から、何もかもが初めての私に、町民の皆様が丁寧に対応してくださったことに感動していました。夜市では、焼き鳥を売る係を担当していたのですが、行きかう人々が久しぶりの再会を果たしたのか盛り上がっている姿、子供たちがキラキラした顔で「焼き鳥ください!」とクジを持ってくる姿、テーブルを囲みお酒を楽しんでいる大人の方々、どの瞬間も私にはとてもまぶしく、江差町の「つながり」というものをしみじみと感じました。この町の人々の笑顔をまもりたいと強く感じた、新鮮で、忘れられない経験になりました。



発行

北海道教育大学函館校 地域協働推進センター 江差 SC プロジェクトチーム (代表 古地順一郎)

〒040-8567 北海道函館市八幡町1番2号 電話：0138-44-4354 (古地研究室) E-MAIL: koji.junichiro@h.hokkyodai.ac.jp

※ご意見・ご質問は上記の E-MAIL へお寄せください。